

“自分らしい” エンディングを考えて…

「最期のセレモニーは、自分の希望に合ったものを」と望む人が増え、葬儀のあり方も多様化しています。2面では、ユニークな遺影サービスを紹介するほか、最近の葬儀事情について、専門家に聞きました。

後世に残る遺影は 元気なうちに

写真スタジオ「ism」では、以前から、完成した家族写真を見て、「ええ顔してるやん！これ、私のお葬式で使ってね」と冗談交じりに話すお客さんも多かったそう。自然な表情を美しく撮ってくれる遺影プログラム「グランフォト」が誕生した

のは、カメラマンの石田直之さんが実父を亡くした経験がきっかけになっています。「後々までずっと残る遺影は、自分らしい表情や、しぐさでいたいと思う人が増えているようです。写真は、生きた証を後世に伝えるメッセージ。その人らしい1枚だから

からこそ、遺影を前にして子や孫が思い出話に花を咲かせるのではないのでしょうか」と石田さん。「愛用の帽子をかぶりたい」「タバコを吸っている姿が良い」「愛犬と一緒に」など、さまざまな希望を聞いた上で撮影します。



カメラの後ろでは、家族が冗談を言って笑わせるなど、和やかなムードで撮影。ずっと残したい、幸せそうな表情の秘訣は、撮影時の雰囲気

が一番。実際、同スタジオでは、子どもや孫と一緒に写真や、夫婦の写真など、家族の記念写真を撮るときと同じ楽しい雰囲気です。希望があれば遺影用の写真も撮影します。撮影そのものが、「あのとき、こんなことがあったね」と家族の思い出の1ページに。2、3年に一度の楽しい恒例行事にしている家族もいるそう。



家族みんなでの撮影も。大好きな人たちに囲まれると、自然といい笑顔に

家族に残すためのとっておきの1枚を、自分で選択してみるのが良いかもしれませぬ。



教えてくれたのは
ism プロデューサー
石田直之さん

普段着のまま、幸せな時間を形に残す「カジュアルフォト」を提案。

問い合わせ: ☎079(281)1929、姫路市本町68
(本町商店街内)